



## 高知で役員会開く

## 総会日程決まる

塩出 栄(RNB)

四国民放クラブは1月29日、国指定の重文、高知城を展望する新装の高知放送会館で役員会を開きました。

その結果、令和7年度総会と懇親会を4月23日(水)に高知市内の高知会館で開催し、翌24日、土佐CCでゴルフ会を実施することになりました。

また、毎年四国の名門コースをめぐる実施していた「秋のゴルフ会」は、会員の高齢化もあり参加者が減少傾向のため中止し、新たに各地区で、ゴルフ会や懇親会等、会員の集まれる事業を開催し、「親睦を図るとともに会員増強に繋げる」事を提案することになりました。

また、「遍路文化と空海の足跡をたどる会」は、令和7年度も高知地区で開催されます。

総会、ゴルフ会については四国の会員全員に案内状をお送りします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

## 空海「四国霊場開創す」

上村 基(RKC)

四国民放クラブでは、継続研究として「空海」について学んでいます。

今回は高知「五台山 竹林寺」の住職・海老塚和秀氏にお話を伺いました。



海老塚和秀氏

15歳で母方の叔父、阿刀大足(あとのおおたり)を頼って都に上った大師は、大学受験の勉強の傍ら、仏の教えに心惹かれる若者となりました。

そして、四国の自然と一体となり修禅をする山林修行「浄行」を始めます。

「あるときは金巖に登って雪に遇うて坎墮(かんらん)たり。あるときは石峯に跨って粮(かて)を絶つて轆轤(かんか)たり」

(三教指帰より)

海老塚氏の説明は、空海の残した文言を交えて続きます。

「ここにひとりの沙門あり。われに虚空蔵聞持(こくうぞうもんじ)の法をしめす。その教えに説かく、『もし人、法によつてこの真言一百万遍を誦ずれば、すなわち、一切の教法の文義、暗記することを得』と。

ここに大聖の誠言を信じて飛焰を鑽燧(さんすい)に望む。阿国大滝嶽にのぼりよじ、土州室戸崎に勤念す。谷響きを惜しまず。明星来影す(三教指帰より)

平安時代には都から離れた山や海辺の難所を廻る「辺地修行」と展開。多くの修行者が四国へ。伊予国石鎚山や阿波国大瀧ヶ嶽などへの山岳信仰、補陀落浄土への入り口として知られ、都から南西に位置する四国は「聖なる島」として信仰を集めた。海老塚師

は語ります。

弘法大師42歳の折、四国を回し、八十八か所霊場を開創したと伝えられ、室町から江戸初期には「入定信仰」「同行二人信仰」が流布。一般民衆も四国霊場を巡るようになりました。1687(貞享4)年、僧・真念の一般向け初の案内本『四国遍路道指南』により庶民の「四国遍路」が定着します。

今回の空海の足跡を尋ねる会は、連絡の行き違いもあり、残念ながら参加者が高知在住者のみであったため今後課題を残しました。

